

# MY BCL LIFE 2006

## Radio ST HELENA



## 【初めに】

2000年11月に復活して以来6年が経過したBCLであるが、この1年は少し息切れを感じていた。復活当初の、あの何かに憑かれたような情熱が失われているような気がしていた。だから過去3年間書いてきたこの「MY BCL LIFE」も、今年は書けないのではないかと真剣に危惧していた。

しかしながらHPのDiaryを読み返して今年1年やってきたことを振り返ってみたら、随分と沢山の思い出があることに気がついた。よく考えれば、この1年間のトピックスだけでも、掘り下げて語ればそれぞれが大きなテーマになり得るものだ。そう、確かに一時のあの熱病のような時期は過ぎたのだが、それでもまだ私はこの趣味に対する情熱を失った訳ではなかった。ただあれもこれもやりたいことは沢山あるのにそれが出来切れていないことで、焦燥感や停滞感を感じていただけのようだった。

そのことに気付いて安堵し、今年も師走のこの時期に、キーボードに向かうことができた。今年も私のBCL的四方山話にしばし時間を頂戴出来たら幸甚に思う。

2006年師走 著者

## 【目次】

- ・ R.St. Helena 受信・・・4
- ・ BCL LIFE in Hawaii・・・4
  - KZOO 訪問記
  - KKEA 訪問記
- ・ アフリカ/南米中波受信・・・8
- ・ 高性能なポータブル機・・・9
- ・ 自宅での DX・・・9
- ・ E スポ DX・・・10
- ・ 2006 年のペディション・・・11
- ・ 06 年の工作・・・12
- ・ 2006 ハムフェア・・・13
- ・ NDXC30 周年記念ミーティング参加・・・14
- ・ DX 用語集・・・15
- ・ Dxing Info と海外 Dxer との交流・・・17
- ・ 楽しんだオフ会・・・17
- ・ 終わりに・・・19

表紙写真：

表表紙写真：2006 年に復活した“七夕放送局” Radio St.Helena のベリカード

裏表紙写真：ICOM のスーパーマシン IC-R9500 時価 200 万円！（笑）

### 【R.St. Helena 受信】

今年のトップニュースにこの局の受信を挙げる方は少なくないであろう。そのくらいインパクトのある出来事であった。私がこの「七夕局」の存在を知ったのは BCL 復活後だったが、その時点ではこの局はその放送を停止してしまっていた。1990 年代に放送し、最後の放送は 1999 年だったそうだ。だからとても残念だったし、もう一生セントヘレナを聞く機会はないのだろうと諦めていたのである。

それが今回のこの朗報である。もう千載一遇のチャンスがめぐってきたと狂喜したのは言うまでもない。絶対このチャンスを逃すまいと、11 月 5 日は万全の態勢で迎えた。日本向けの放送は 5 時からだったが、もうないであろうと諦めていたこの日のチャンスを、絶対に逃す訳にはいかない。したがってこの日は 5 時の日本向け放送開始に先立つ 30 分前、4 時半に起床した。絶対に寝過ぎさぬよう、2 台の目覚ましをセットして起きた。そしてすぐにリグの前に座った。一体どのくらいの強さで聞こえるのか、そもそも自宅で聞こえるのか、或いはペディでもやらねばならないのか？ 何せワンチャンスなので失敗はできないのだ。しかし「自宅で聞こえないような放送であれば、そんなもの放送でも何でもなし。」と自分に言い聞かせ、少なくともペディで聞こうという考えはやめる。

さて 4 時半過ぎの時点でも既に電波は出ている。但しニュージーランド向けの延長なのか、電波は微弱である。この強さではとても確認までは至らないな・・・と思っていると、4 時 44 分を過ぎたときにいきな

り電波が強くなる。日本にビームが向けられたのだろう。おお、これならコンファームできるかも知れない……。大いに期待が高まってきた。そして 5 時を迎える。R.St. Helena の ID が連呼される。やったー、遂に捉えた、セントヘレナからの電波だ！ 遠く大西洋の孤島からの電波を感慨深く聞く。これがたった 0.5kW の出力なのか。アマチュア無線並みのパワーで飛んでくる電波がここまで強くなることに感動を覚える。内容も今回の放送の実現に功績を果たされた大武 OM のお話や、良く知った音楽、セントヘレナ島の紹介、その他知人 DXer のメッセージが読まれたりと、興味の持てるものであった。



R.St.Helena アンテナ建設光景 (同局 HP より)

十分レポートが書けるだけの内容が取れたので、安心して 6 時に受信を終える。復活以来の永年の夢の実現であったし、日本の BCL が今年一番盛り上がったイベントであったであろう。また来年以降もしてもらえないだろうか、切に願うのであった。

### 【BCL LIFE in Hawaii】

個人的に今年一番の思い出となったのは、ハワイでの BCL であった。ハワイで行われる親族の結婚式に家族で出席することにな

り、せっかくの機会だからと隙間時間にいかにして BCL 活動を行うか謀略を巡らす。そして ハワイ AM ローカル局 ID 集の作成～特に日本での受信が非常に困難で自身未受信の局、放送局訪問～KZOO と KKEA～の 2 点に主眼を置いて活動した。

受信機は自分の ICF-2010 は重くて旅行に向かないと痛感したので、S 師より 7600G を拝借。アンテナは付属ループがあったが、今回はローカル局のみの受信だったので使用しなかった。

DXer 各位からは頑張って BCL に励んで来るよう激励の言葉を頂戴し、特に T 師からは日系人向けの日本語放送をチェックしてきてはと課題を頂戴したが、900/KNUI は弱過ぎ、1270/KNDI は放送時間が不明で未チェックに終わった(今 Web でチェックしたら金曜 18:30～20:00 と掲載されていた。すぐ調べられたのに…ショック!)。同じく S 師からチェックするように申し渡された 1620 は、時間帯が悪かったのか何も聞こえなかった。事前に下調べしていないとこういうことになる(涙)。それでも毎正時を中心に受信して課題は無事終了。そして焦点の課題に取り掛かる。

#### 《KZOO 訪問記》

まずは KZOO から訪問した。こちらはかなり前から同局のスタッフの方とメールでやり取りをしたのでアポ済みである。昨年 S 師が私のレポートを持って同局を訪問して下さった際に、スタッフの方とのコネクションが出来たのだ。もっとも私がコンタクトを取った方は、あいにく私が訪問する前後はバケーションとのことでお会いできず、代わりにスタッフの方を紹介して下さい

ってその方を訪ねることになる。

3/26(日)のお昼過ぎにお邪魔する。この日はいずれにしてもオアフ各所を観光するつもりだったので、予めレンタカーを借りておいた。久々の左ハンドル右側通行に心地良い緊張感を感じつつ、初めての場所なので時間に余裕を持って向かう。何せ無鉄砲な私は何とかなるだろうと、道路等の下調べは殆どしていない。大体この辺だろうというアバウトさで車を走らせるのだ(笑)。それでも動物的な勘で、一発で同局のあるマノアマーケットプレイスに辿り着く。念のためそこから電話をするが、留守電の応答メッセージのみで話が出来ない。でもまあここに間違いないだろうと、歩いてオフィスを探し始める。すると日本人と思しき女性に話し掛けられる。「KZOO ラジオのオフィスをご存じないですか?」。奇遇にも彼女も KZOO を訪問して来たようであった。実は自分もそちらに行くのだが、私も初めてなので探していると答える。もっとも彼女は地元の方であり、私のような日本から来たもの好きではない筈だが(笑)。

「5-204/KZOO」という表示を見つけた。ルームナンバーは分かったのだが、うっかり通過してしまった。大きな看板も出ていないし、一見放送局に見えないからだ。ドアに KZOO の小さなステッカーが貼ってあるだけである。その前で家内に写真を撮ってもらい、いざ中にお邪魔する。対応して下さいしたのは DJ の小椋カリーンさんであった。日曜日は一人体制のようで機材のオペレーションも行っておられたが、笑顔で親切に対応して頂けた。

お話を伺うと、同局は TBS と提携しており、午前中は TBS の番組をリアルタイムで

中継しているとのことであった。実際スタジオの中を TBS の番組が流れており、そして CM になると地元スポンサーのローカル CM に切り替えていた。この操作は全て手動。ちなみにニュースの内容も当日の英字新聞をスタッフが訳してそのまま放送するというので、全体的に手作りのテイストが感じられる。

小椋さん自身についてお伺いすると、静岡や鹿児島などの FM 局で DJ をやっておられたとのこと、外国人と結婚されてハワイにお住まいとのことであった。そして縁のあった KZOO に勤務することになったそう。同局には芸能人がお忍びで訪問して来たり、DJ 仲間が遊びに来て喋って帰って行ったりするなど、裏話を聞かせて下さった。



KZOO スタジオにて（日付は 3/26 の誤り）

最後に何枚か記念写真を撮影し、またスタジオに座った私自身の写真を撮って頂いたりする。そしてお土産を渡し丁寧にお礼を述べてオフィスを後にする。

伺っていたようにこじんまりしたオフィスで（以前のオフィスの 1/3～1/4 の広さだそう）、日本の放送局をイメージするとかなりギャップがある。しかし昔憧れてそしてやっと受信できたあの局に、今自分が足

を踏み入れていることに深い感慨と大きな満足感を覚えていた。今回のハワイでの、いや自分の BCL LIFE での最高の思い出のひとつになりそうである。訪問を快諾、そして歓待して下さいました KZOO スタッフの皆様に深く感謝申し上げる次第である。

#### 《KKEA 訪問記》

ハプニング性が高いという意味ではこちらの訪問も大変面白かった。KKEA はスポーツ専門局 ESPN のネットワーク局である。実は昨年 1 月の蓮沼ペディで受信できたハワイ 5 局のうち、残念ながら返信が頂けなかったのが KZOO（後に S 師の訪問により入手 = 上述）とこの KKEA なのであった。Shin さんも昨年 12 月に同局を受信してレポートしたがやはり返信を得られていなかった。じゃあ私が行って頂戴してきましょうと調子の良いことを言って、実際にレポートと受信音をお預かりして行ったのであった。

しかし安請け合いして行ったは良いものの、実は同局の住所すら調べていなかった（笑）。そこで休日出勤している S 師にメールを送って調べてもらった（会社の PC だったので個人のメアドが分からず、S 師の会社のアドレスしか思いつかなかったのである）。そして当日、同局の所在する Bishop 通りに行くが、何せ詳細な地図を持っている訳ではない。通り名と番地だけでとりあえず行ってしまえという、私らしい乱暴なやり方だ。私の英語はかなり怪しいので、念のために私よりは慣れている家内に一緒に行ってもらった。

Bishop 通り 1000 番は意外と簡単に見つかった。高層ビルが数本立っている、ホノ



ルルのオフィス街の中心のようであった。どのビルがそれか分からず、とりあえず順番に入って行って、1Fで入居案内を見る。最初の2本は違った。特に2つ目のビルは810という部屋番号は存在したが、部屋の前まで行くと空オフィスになっていたの、フォーマット変更やオーナー交代の激しいアメリカ局だからひょっとして移転してしまったのではないかとちょっと諦めかける。そしてふと通りの向かい側のビルの入口に目をやると、なんとそこには「Bishop1000」と表示されているではないか！なんだ、あのビルじゃないか。ちなみに先に見たビルは1001番地であった。そこで急いでそのビルに向かい1Fにある入居者表示を見るが、810は個人の事務所的名称で、KKEAとも放送局とも書いていない。まあいいや、とにかく突撃してしまおうと図々しく腹を決め、実際に突入してしまう。

こじんまりとしたオフィスの中では男性2名と女性1名がミーティングをやっていた。「こちらはKKEAのオフィスですか？」と尋ねると、「そうです」と女性が答えてくれた。「しかしアドミニストレーションオフィスは2軒先のビルです。ご案内しましょう。」と言ってくれる。そこで有難くついて行くことにした。そして歩きながら話をする。「私は日本から来たのですが、貴局のリスナーです」「インターネットの？」「いいえ、ラジオで」「えー、本当ですか？」驚くような半信半疑の面持ちだったので、「特別なアンテナや受信機を使うと、ハワイからの電波が日本でも受信できるのです」と答える。そしてビジネスの名刺だったが渡して自己紹介し、「でも今回はあくまでもプライベートで来ています。」と付け加える。彼

女も名刺をくれたが、そこには「President」の肩書きがあった。彼女の所属会社がKKEAとどういう関係にあるのか分からないが、いきなり社長にはちと驚いた。

さてその社長Susanさんはアドミニストレーションオフィスの応接に通してくれて、今度はKKEAのゼネラルマネージャーであるランダル・イケダ氏を紹介してくれた。名前で見分けるように日系3世で、ルックスは日本人のままである。ただ日本語は話せないとのことであった。そこで改めて今回の訪問の趣旨を伝えると、「ああ、ベリフィケーションですね」と理解してくれる。そこでやおらShinさんと私のレポート及び受信音声CD-Rを渡し、「突然の訪問で恐縮ですが、確認頂けるようであれば発行して頂けませんか」とお願いしてみる。氏は快諾してくれて、10分程待ってくれば準備しますよと言ってバックオフィスに消える。



KKEA オフィス (日付は 3/27 の誤り)

そして言葉通りに10分ほど経過してイケダ氏は戻ってきた。両手にShinさんと私宛のレターを持って！アポなし訪問にも関わらず、親切に対応して下さったことに丁寧に礼を述べて少し話をする。「他にハワイの局はどこを受信しましたか？」「KZOO、KUMUなど数局です。昨日はKZOOにお

邪魔してきました。」「当局にはノルウェーとかからもレポートが来ますよ」。さすが北欧のDXerだ。最後に今一度お礼を言って、握手をしてオフィスを辞す。

KZOOの訪問も良かったが、KKEAの訪問はまた違った意味で味があって面白かった。場所も良く分からず、そしてアポもなくとりあえず行ってしまう。そしてたどたどしい英語で意向を話して、何とか verify してもらおう・・・非常に面白い経験だったし、当たって砕ける的でいかにも私らしい気がする(笑)。短い旅行でしかも家族と一緒にでなかなか自分勝手にも行動出来なかったが、良い思い出を作ることが出来た。さあ、次はどこへ行こうか・・・

#### 【アフリカ/南米中波受信】

これまで MW-DX では北米、オーストラリア、ヨーロッパ局を受信することが出来たが、アフリカと南米は当分先かと思っていた。ところが今年はこの両大陸の局を受信することに成功した。

アフリカは R.Djibouti だった。ジブチは短波では受信したことがあったが、中波で聞こえるとは思ってなかった。アフリカ中波はブーム当時は R.Cairo などは比較的容易に受信できたようだったし、R.Tanzania も受信されていたようであった。しかし環境が悪化した今となっては非常に難しいだろうと思っていた。ただ今年は太陽黒点の最少期である。この時期はチャンスだし、今受信できなかつたら次回は 11 年後だ。

そんなときお仲間の B 氏が「1539 でジブチが入っている」と教えてくださったので狙ってみるとあっさり受信できてしまった。ID をとるには弱かったが、短波で聞かれる

テーマ音楽が流れたので、同局と確認することが出来た。気合を入れていた割にはペディでもなく自宅で受信できてしまって、あっけないくらいであったが、とにかく無事にアフリカ局は受信できた。

南米はペディで受信した。チリの R.Corporacion である。9月の太東崎ペディで受信できた。この日のコンディションはかなり良く、550~1700 まで殆どの 10kHz セパレーションのチャンネルで何かが入っていた。その時点で T 師はここを狙っていたようであった。周波数は 1380 である。夕刻このチャンネルでスペイン語が聞こえてきた。しかもかなり強い。ここまで強いとまさか・・・と思ってしまうのだが、そのまさかだったのだ。間もなく ID を連呼。おいおい、チリだよな。こんなに強いのか・・・。受信できたとしても信号は弱く相当シビアであろうと思っていただけに、拍子抜けしてしまう。ルートが開けると常識では考えられないことが起こるのだということをつくづく実感する。



R.Corporacion の Website

こうして五大陸を制覇してしまった次の目標は何だろう。自分的には不可能に近い神業～北米東海岸局の受信だ。それも常識では考えられないのだが、実績はあるし不可能ではない。北極圏のオーロラを通して来るだけに、これも相当な困難を伴うだろう



うが、いつかは実現したい夢だ。まだまだ難しい局が沢山ある。根気が続くまでチャレンジしていきたいものだ。

#### 【高性能なポータブル機】

その昔デジタル表示のプロシード 2800 は 49,800 円もした。勿論ヘビーな DX まで対応していなかったと思うが、それなりの局は一通り受信できた筈だ。そして歲月



BCL ブームを象徴するプロシード 2800

は 30 年流れて、技術の進歩は素晴らしい性能アップとコストダウンを実現していた。

それが DEGEN DE-1103、通称「愛好者 3 号」であった。この受信機は勿論 1kHz 直読、短波・中波はフルカバー、FM 帯も海外バンドをカバーしている。SSB も復調 OK。感度も良いし、メモリーも 268 チャンネルついている。これだけのリグが何と 9,000 円だったのだ。これはもう革命と言えよう。ハムフェアでは何と 8,000 円まで値下がりしていた。



コストパフォーマンスに優れる愛好者 3 号

そんな愛好者 3 号は、パフォーマンスもなかなかだった。もちろん感度的には問題ない。E スポ DX には十分なパフォーマンスで、オープンしたときは百花繚乱で中国、台湾、韓国語がバンド全体で聞こえていた。海外バンドをカバーしてくれるのは有難い。

高選択度を要する MW-DX には流石に厳しい。選択度はやっぱりポータブル相応に甘いからだ。しかしそれでも 850/KICY、780/KNOM などは、良好な日はサイドがきついなながらも愛好者 3 号でも聞こえていた（アンテナは ALA-1530 使用）。

たればを言っても仕方がないが、もしあの BCL ブーム当時にこの愛好者 3 号があったら、小中学生 Dxer の愛機は大半はこれになったのではないだろうか。そんなことを思わせるラジオで、これからも大いに楽しませてくれるおもちゃになりそうだ。

#### 【自宅での DX】

本格的な DX はすっかりペディション頼みになっているが、自宅でも頑張ればそこそこの DX が出来るものである。今年も何回かはそれなりの DX 局が自宅でも受信できた。一番印象深かったのは、アリゾナの中波局 1510/KFNN だった。この局は狙って殆ど偶然に受信できた。それまでこの周波数ではワシントン州の KGA しか受信したことがなかったからだ。したがって強力に受信できたこの日も、てっきり KGA だと思い込んでいた。しかし正時前に取れたコールは KFOA と聞こえたし、少なくとも 4 文字のコールだった。

このどこの局かを推測する遊びは、たまらなく面白いものだ。当日開けていた地域を帰納的に分析して推測し、最も可能性の

高い局を導き出すのだ。伝搬ルートを考慮しフォーマットから推測し、最新リストから絞り込んでいく、極めて知的な遊びだ。これはたまらない。そしてこの日はリストから最も可能性のある局として導き出されたのが KFNN だったのだ。フォーマットも Newstalk で適合する。実際録音を聞き直して、もっと明瞭に KFNN と言っているところを発見し、幸いにも確認できたのであった。S 師からは「なかなか受信できない局ですよ」とアドバイス頂いて、嬉しさもひとしおこみ上げてくるのであった。



KFNN のペリレーター

少し話題はそれるが、このようにある特定の周波数で「この局しか聞こえない」という思い込みは極めて危険である。例えば TP-DX で言うと 1640 は極めて興味深いチャンネルであり、大抵の場合サンフランシスコの KDIA が入っているが、時にはオレゴンの KDZR であることもあるし、あるいはユタのスペイン語局 KBJA が入ることもある。さらにはオクラホマのスポーツラジオ KFXV も入ることがあるのだから、先入観は絶対禁物なのだ。このように常連以外の思わぬ局が受信できることが DX の醍醐味である。

もう 1 局印象深い受信はオーストラリアビクトリア州の 3WMM だ。この局の出てい

る周波数 1089kHz は、韓国だの何だの周辺諸国の複数の局が出ていてクリアになることがない。その中でオーストラリアの 5kW 局を受信するのは大変厳しい。ただこれもコンディションのなせる業で、時々ま浮かび上がってきて内容が聞き取れるレベルまで達することがある。その瞬間を狙うのも DX の醍醐味だ。距離や出力のハンディを乗り越え常識を超える瞬間が何よりもスリリングである。これに魅せられてしまうのだ。

自宅での R.Vatican(1611kHz)の受信も趣深かった。相当出力も大きいしチャンネルも悪くないから聞こえても不思議はないのだが、やっぱりあの IS が聞こえると凄く感動してしまう。思わず録音せずにはいられなくなるのだ。

なかなか厳しい自宅 DX だが、07 年も僅かなチャンスを狙って面白いところを聴いてみたいものである。

### 【E スポ DX】

今年は初夏に E スポをいろいろと聞いてみた。私は良く分からないが、そこそこ当たり年だったようだ。懇意にして頂いている T 師が E スポ発生をリアルタイムに知らせて下さったり、「よければ貸してあげましょう」とリグ (ICOM IC-R7100) まで貸して下さったのだから、これは聴かずにはいられない。今年は初めてロシア民放 FM 局



ICOM IC-R7100

も聞いたし、フィリピンの TV 音声も受信した。中国、韓国、台湾は言わずもがなで百花繚乱だったが、言語が不案内なせいでなかなか親しみが持てない。なおかつこのジャンルにはまってしまったら、休日の日中も受信機の前から離れられなくなってしまふ。世帯主としてとても許されるものではない。

そこで感動はしながらも極端にのめり込むことなく、少しずつ聴いていくことにした。そうして受信したのが FM 沖縄だった。同局は 2 年位前にもカーラジオで受信したことがある。そう、E スポさえ発生すれば受信設備を問わない辺りも、E スポ DX の良さかもしれない。そのとき出しそびれたレポートを今回はしっかり書いてみた。そして数日後にペリカードをゲットすることが出来た。



FM 沖縄のペリカード

短波が衰退し PLC で受信環境の悪化が懸念される今となっては、もっとのめりこんでみたいジャンルではある。しかし前述の通り時間帯が日中に限定されると厳しい。これは定年リタイア後の楽しみとして取っておくべきジャンルかも知れない。そのときに本格的に取り組むことになるうか。

#### 【2006 年のペディション】

昨年よりは回数が減ったものの、今年も

随分ペディションには行った。細かいものも含めると、10 回ほどのペディを行っていた。私の言うペディは 3 つのレベルに分かれる。宿泊を伴う普通のペディ、日帰りでヘビーな DX を狙うゲリラペディ（略称ゲリペ）、自宅の近隣のノイズレベルの低い場所に車で乗りつけ、簡易なアンテナでライトな DX を行うペディ（通称チョイペ）である。これらは時間の有無ややる気等を勘案して、どのレベルにするか決定している。06 年は通常ペディ 4 回、ゲリペ 4 回、チョイペ 2 回であった。

それぞれかなり楽しめたペディであったが、DX 的に最も成果が出たのは 9/17 ~ 18 の太東崎宿泊ペディであった。この日は台風が来ているにもかかわらず、思い切って出掛けた。到着前から既に泣き出し始めたので、やむを得ずテントは屋根つき休憩所の下に設営した（図々しい！）。そして北東向け・南東向けに張った 2 本の K9AY を駆使して好コンディションの下、素晴らしい成果を出すことが出来た。一番感激したのはチリの R.Corporacion であった。1380kHz で夕方に聞こえてきたスペイン語がそれで、あまりの強力な電波に驚いた。いくら 50kW とは言え、ルートが開けると地球の裏側の中波局がこんなに強力に聞こえるのはまさに脅威だった。もうこれですっかり満足してしまい、後はスカでも構わないという心境だった。しかしながらコンディションは良かった。この他ではネブラスカの 880/KRVN が取れたのと、590 というシビアナ周波数でアラスカの KHAR が取れたこと、そして同じく 690 というシビアナチャンネルでは、ハワイの現地受信でも聞いた KORL が確認できた。とにかく 17

時に受信を開始してから翌朝 1 時までずっと聞こえていたのだから、休んでいる暇もなく疲れた。



KRVN のペリカード

太東崎の宿泊は初めてだ。しかも民放が停まる月曜早朝とあっては、どんな局が聞こえるのか楽しみで仕方がなかった。そこでほんの 1 時間半ほどの仮眠の後、またもやリグに向かうことになる。ただし今度は南狙いだ。ただこちらはそれほどのコンディションではなかったようで、百花繚乱とまではいかなかった。自分が唯一確認できたのは、オーストラリアの 1377/3MP だけだったが、New Zealand の 783/2YB をコンファームされた方もいた。

10/28 和泉浦ゲリペでもアラスカの 550/KTZN が受信できた。12/2 の同じく和泉浦は DX 的な成果はイマイチだったが、Waki さんと H さんという初めてペディをご一緒できる方がいたりして、そちらの方でも楽しかった。



和泉浦ペディ会場

チョイペも馬鹿にしたものではない。1/2 に自宅より車で 5 分の市営球場横で行ったチョイペでは(アンテナは ALA-1530)、別に珍しい局ではないが自宅では中々受信できなかったブラジルの 11735/R.Transmundial やインドネシアの 7290/RRI-Nabire が受信できた。

これ以外のペディでもたとえば 1/8-9 の蓮沼ペディでは普段お会いできない名古屋の方とも一緒に聞けたし、5/5-6 の「家族サービス偽装ペディ(ファミリーキャンプの癖に受信機 2 台と K9AY を設置する)」でも、東の間のフィリピン中波爆裂を体験することが出来た。07 年もやめられない、DX の場として、そして仲間たちとのコミュニケーションの場として、BCL LIFE のベースになる活動となりそうである。

#### 【06 年の工作】

06 年の工作は残念ながらアクティブとは言い難かった。根気が無くなってきたというのだろうか、中々新しいものに取り組み意欲が生まれてこなかった。BCL 活動以外にもやりたいことが多くて、まとまった時間が取れなかったのも一つの原因である。まあ作りたいたいもののは半分は作ってしまったとも言えるが・・・

そんな中で唯一力を入れて作ったのは LED ランタンであった。100 円ショップで売られているランタンを改造して、筐体はそのまま生かし中身の豆電球を LED16 個に入れ替えるのだ。LED は 2 個で 100 円なので 16 個だと 800 円だ。製作に要する時間を考えると買った方が安いのではないかという意見もあるが(笑) それでも作るのは楽しい。同じものを 3 台も作ってしまった



た。もっともこのランタンはゲリペの際にテント内で使用する照明器具として実用的な価値があり、何個あってもいいものだ。このランタンのお陰で、ペディに行って晩飯を食べながら暗くて何を食べているのか分からない状態から脱却することが出来て本当に良かった。それまでは本当に闇鍋状態だったから(爆)。



100均ランタンを改造したLEDランタン

それ以外の BCL グッズで唯一手を出したのはループアンテナ「OYA」であった。今更もいいところなのだが、景気付けに簡単なものを作ろうと思って手を出した・・・くせに全然下手くそで、簡単な筈なのに成功できなかった。そして相変わらず大魔神佐々木=S 師のご自宅に送りつけて修理してもらった。でも作ったくせに未だ本格活用に至っていない。どこまで出来るのか、しっかり確かめてみたいと思う。

さあ来年はどうしようか。今思っているのは、今年こそ以前に作った T2FD を設置して、PLC に汚染される前の最後の短波 DX にチャレンジしたいと思う。そのためにもマストとして良い物を探してこなくては・・・。一本は竹で良いが、もう一本のペラランダに載せるものは軽いグラスファイバー

系素材のものが良いと思っている。理想は K9AY で使っている玉網の竿で長いものだ。早速探してみよう。

3 年越しの課題であるハイカットフィルタも作らねば。年末 29 日に Shin さん、Miya さんと飲みながら、いい加減につくりましょうよと語り合った。きっと簡単なことだ。やろうと決めて、日程を設定してしまえばいい話だ。絶対やろう。

工作もそうだが、何かモノを買うとまたアクティビティが上がってくることがある。そんな意味でも、来年は IC レコーダーを買おうと思っている。以前 S 師に推薦頂いたグライコ等のグッズも面白そうだ。来年も大いに楽しみたい分野だ。

#### 【2006 ハムフェア】

ハムフェアは 2001、2002 と参加してやめてしまった。ハムと称しながら実際にはパソコンとかアニメとかの出展があったりして、少々看板に偽りありではないかと思ったからであった。それと以前も書いたが、モノを買うのであればネットの方が確率が高く、そういう意味でもハムフェアの意義は薄れているように思われたからである。

にもかかわらず今年参加したのは、単純に T 師から誘って頂いたからであった。まあオフ会の延長くらいに考えればいいのかと思ったことによる。8 月は DX 的にはオフシーズンなので、時期的にはちょうど良いのだ。

そして行って見て、今一度ハムフェアを見直した。結構今年は楽しめた。それはひとつには出展そのもので非常に興味ある商品～ICOM IC-R9500 と AOR AR ~ が参考出品されていたことがある。まあどちら

も恐らく買うことのない(というか高くても買えない)商品なのだが、見る分には楽しい。スーパーマシンの目の前で見ると見る楽しみはそれなりにはある。



AORのモンスターマシンAR-

模擬店を流してみるのもそれなりに面白かった。買うことそのものに目的を置いていると幻滅することになるが、何かのついでに掘り出し物を買うくらいだったら、十分に楽しめそう。もっとも今年は食指が動くほどのものはなく、実際には何も買わなかった。

しかし一番の楽しみは、やはり仲間に出会うことだろうか。今年はS師とShinさんに行ったが、JSWCのブースでもDxer諸氏とお会いできたし、他のブースでも以前お世話になった方に話しかけてみたりして交流することが出来た。敬愛するNGO先輩も遠方からお見えになって、(事前に連絡を取り合っていた訳でもないのに)先輩は電話を下さって会場で会うことが出来て一緒に回った。

つまるところ、ハムフェアは「年に1回の同士の集まり+」くらいに考えて過大な期待をしなければそれなりに楽しいイベントと言ってよいのではないだろうか。来年も参加してもいいかなあと今から思っ

ている。

#### 【NDXC30周年記念ミーティング参加】

NDXCミーティング(オフ会)参加は2回目である。2004年G.Wに、稲沢市のM先生宅で行われた飲み会に参加させて頂いたのが初めての参加で、今回は光栄にもお招き頂いて喜んでお邪魔した次第である。

前回のオフ会参加記にも書いたが、自分にとってNDXCとは憧れのサークルだ。これは年末に飲み会で埼玉のH氏とも語り合ったことだが、「中学時代本当にNDXCに参加したかったよね」というのが当時の我々の気持ちだった。「何で名古屋に生まれなかったんだろう」と私も思った。そう思った小中学生はH氏や私だけではなかった筈だ。全国のかなりの数の小中学生BCLがそう思ったと思う。ハイレベルなミーティング、全国から錚々たるメンバーが集まって飲んで語り合う忘年会、しかし何よりもスーパーアンテナを設置して、名前だけ知っている名機を駆使して、名だたるOMの指導の下に珍局受信を目指すあの多度山ペディは魅力的だった。本当に羨ましかったが、指をくわえて横目で眺めざるを得なかった当時の心境を察すると、我ながら切なくなる。

そんな栄えある記念ミーティングなのに、私は遅刻してしまった(笑)。既に何人かの方が挨拶を終えておられて、どなたかがスピーチをしておられる最中に知人の失笑の視線を感じつつ、自分の名前が書いてある席に着く。憧れのNDXCとか言っておきながらお恥ずかしい限りだ。この字に配置された会場の参加諸氏の顔ぶれを見渡すと、名前だけの方も含めて概ね存じ上げている



方が大半である。そんな方々と席を共にし、こうした記念すべき区切りのミーティングに参加できるのも本当に有難いことである。そうしているうちに私にもスピーチの順番が回ってきて、30周年に対する祝辞、お招き頂いた謝辞と共に、自分のBCL的近況なども少しだけ紹介させて頂く。

そうして一次会を終え、二次会会場に移動するまでのインターバルは、運営スタッフの皆さんがご準備くださった昔懐かしいリグ・書籍などの資料を拝見したり、中々お会いできないDxer諸氏と談笑する。

二次会では駅前のビュッフェ形式の会場で、食べながら卓を囲む。気の合った方々と飲みながらいろいろと語り合う…まさに至福の時間だ。これこそ昔自分が「Hz」誌で読んで憧れた世界ではなかったのだろうか。明日は仕事で帰らねばならないし長居は出来なかったが、短い時間でなるべく多くの方と話して楽しんだ。

次回の記念ミーティングはいつになるだろうか。NDXCがいつまでも続いていかれることを願っているし、お仲間の一員と思って頂けて私もそれを祝う席に同席させて頂ければBCLの末席に位置する者として喜びに堪えない。



一次会終了後の記念写真（NDXC HP より）

## 【DX用語集】

1月の蓮沼ペディの往復の際に、S師とのしょうもない会話から「用語集」構想は生まれた。ゲリペやオフ会をする度に、仲間内でしか通じない用語が生まれる。それに新しい仲間が加わると、その用語に戸惑うのではないかと思われる。いちいち説明するのも面倒だ。そこでそうした用語を一同に集めてしまおうというのが、発想の原点であった。しかし途中からはDX用語でも何でもなくなっていった、思いついたギャグをただ加えて遊んでいるに過ぎなくなっていった。これにしょうもない解説を加えて、内輪で楽しんでしまおうということである（笑）

これは師と私、そして最後はShinさんも加わって製作した。当初ベータバージョンを作ってメールでやり取りをしたのだが、これが爆笑モノであった。日頃忙しいだの午前様だの言っているS師のレスの早いこと（笑）。如何に二人が楽しんでいたかが想像できるだろう。

何回かの改訂を重ねて、用語集は完成した。かなり（というか殆ど）内輪ネタなので、外部の方が読んでも全然面白くないものが大半かと思われる。全国に大公開などという野望もあったが今のところ頓挫しているので、ここではほんの少しその用語のさわりをご紹介します。ウケるようだったら、全面公開も考えてみたいと思うが、多分あり得ないであろう（笑）。我々の力作の一部を、とくにご覧あれ！

- ・ **珍来【ちんらい】**: 千葉県東金市にあるラーメン店。千葉県下に数店舗を有するチェーンである。太東崎ペディに行く際にその前を必ず通過するが、「珍局万来」を連想させる店名があまりに縁起良く、Dxer は必ずこの前で合掌、礼拝（二拍一礼）することになっている。社殿には参拝者の注文を聞く巫女が数人配置されており、「祝詞」と呼ばれるメニューは新聞紙見開き大で圧倒される。無料のお札（餃子 100 円券）もある。



- ・ **ポール巻【ぼーる・まき】**: K9AY アンテナのポールにエレメントを巻きつけてセットした状態。こうしておけば素早く設営できるので、ゲリベ運営の飛躍的な合理化が図られる。ちなみに「巻」の字を「牧」と間違えると指パッチンで一世を風靡したお笑い芸人（故人）になってしまうので、注意が必要である。



・ **プレス対応【ぶれすたいおう】**: ゲリペの際の悩みの種は、アウトドアで楽しんでいると必ずと言っていいほど一般ピープルが好奇の視線を向けて「何やってるんですか？」と質問してくることである。その度に Dxer はワッチの集中を中断させられ、その対応に追われることになる。しかし怪しいオタクと勘違いされぬよう、努めて明るくさわやかに対応することが求められる。こうした一連の対応を総称してこのように呼ぶ。関連用語の「ポリス対応」は、ペディ中に受ける職務質問を意味する。

・ **アンテナおじさん【あんでなおじさん】**: ペディションは本来ラジオを聴くことが目的である筈なのに、この人物はアンテナを張った時点で満足して燃え尽きてしまう。したがってワッチタイムになると往々にして目を閉じて舟を漕いでいたりしてやる気が感じられない。一般の Dxer には理解不能な人物である。埼玉県下に 1 名、存在が確認されている。

・ **アル中【あるちゅう】**: 「アルコール中毒」と思ったら大間違いである。DX 的には「アルゼンチン中波局」を意味する。同様の略し方に「ブラ珍（ブラジル珍局）」、「ポリ珍（ポリビア珍局）」などがあるが、ひとつとしてロクなものはない。

・ **高田純次【ちがさき・やなぎしま・かんりにん】**: これはかなりマニアックな用語。神奈川県内の某キャンプ場はペディションにうってつけのロケーションだが、ここの管理人のヘアスタイルがリーゼントで、タレントの高田純次にクリソツ。恐らく元ヤンと思われるが、現在は更生して人の良い管理人のオヤジである。趣味は野菜作りのようだ。

### 【Dxing Info と海外 Dxer との交流】

05 年にお近づきになれたオクラホマの Dxer、John Bryant 氏から、ニッポン放送の看板番組「オールナイトニッポン(ANN)」に関して研究した記事について、その検証を依頼される。逆 TP-DX に造詣の深いベテラン Dxer である氏の研究であるので、流石によく調査されていた。日本人だからと言って別段 ANN に詳しいわけではないので、検証と言われても大したことが言える訳ではなかった。しかしそこは地元の利を生かして日本語の資料もチェックできるので、多少なりともアドバイスもできのこをさせて頂いた。

そうして間もなく Dxing Info Web サイトに、件の記事が掲載された。新着情報としてトップページにイントロダクションが載っていて、そこには協力者として私の名前も掲載されていた。ほんの少しリバイズの真似事をしただけで名前を出して頂くのも恐縮だが、有名なサイトに自分の名前が掲載されているのを見るといささか奇異な感じがした。なかなか面白い体験だった。



Dxing info Website

反対に私が氏にお願いしたのは、私がペディ記を英語で書いたらそれをリバイズして頂いて、氏の知己のサイトに掲載して頂きたいということである。氏は快諾下さったが、私の方が一向に肝心の原稿を書き上

げないため未だ実現していないが、必ず実行するつもりだ。これは氏も私にペディ記を書くように勧めて下さったのと、私自身が日本の Dxer の生態を世界の Dxer に知って欲しいという欲求のためである。

受信環境や DX に掛けられる時間などの影響で、成果という点では欧米の Dxer の興味を引くようなものは残せないことは初めから分かっている。日本は殆どが強電界だしクリアチャンネルは殆どないし、ノイズも多いしビッグアンテナは張れないし、長いバケーションも取れないから期間も短いし・・・で、kW 以下の中波局を受信してしまう彼らに敵う筈がないのだ。私が紹介してみたいのは、ウサギ小屋に住むワーカホリックな連中が、どっこい工夫と努力で大いに楽しんでいる様子なのだ。「Japanese Geripe」が世界を席卷できないものか？それは冗談だが、そんな我々に少しでも親しみを感じてもらって、願わくばもっと交流してみたいと思うのであった。英語版 Website とともに、来年こそ実行に移そうと決意している。

### 【楽しんだオフ会】

冒頭に「一時の情熱を失って云々」と書いた。また先日 Shinさんと飲んだときに、氏は「かつての KDXC Call Sign 誌などを読み返すと、もの凄くこの趣味に熱中していた人達がいつしかいなくなってしまっている。これは何故でしょう。」と呟いておられた。まあ趣味だし、人の心は移ろいやすいものなので、いつかは情熱を失ってしまうこともあるだろう。むしろ同じ趣味を何十年もずっと続けている人の方が稀であるのだろう。それはやむを得ない。

しかし私が残念なのは、こうした人達も仲間とちょっと結びついていれば続いていたのではないかという点である。BCLは一人でも出来る個人的な趣味である。その気になれば誰とも交わる必要もない。本来的にそういう特徴を持った趣味なのだ。実際小中学時代の私も、たまにミーティングに出席したとは言え基本的に孤独な趣味であった。だからスランプに陥ったり壁にぶつかったりするとその時点で情熱を失い、もうそこで終わってしまったのであった。

しかし曲がりなりにも今の自分が BCL を復活して 6 年が過ぎたこと、そして前にも触れたが NDXC というサークルが 30 年を迎えたという事実が、他の Dixer と交流することの大切さを物語っている気がする。勿論一人でやりたい方はその流儀を通せばよいと思うし、一人の方が気楽だし他人と一緒にやることの煩わしさを感じる人は、そのままのスタイルで問題ないであろう。私はやはり一緒にやる方が好きな人間だし、例えラジオを聴かなくてもラジオの話題をしなくても、Dixer の人達と交流したい方である。だから今年も何回かは純粋なオフ会、飲み会で集まった。

Yさん・Iさんは3人で集まるお仲間だが、お二人は忙しいのと興味関心の対象が多様なので、集まっても受信ネタやリグの話題になることが殆どない。しかし既にお互いのキャラクターなどもまずまず把握できているので、今更 BCL 系の話題をする必要もなく日常ネタで盛り上げられる。私にとって貴重なお仲間である。

地元の仲間が集まるという趣旨のオフ会もある。やっぱり遠くの親戚より近くの他人だ。年末は地元横浜で集まった。少々遅

くなっても帰りやすいし気が楽だ。残念ながら 5 人中 2 人が諸事情で来れなくなってしまったが、集まった 3 人はもう気安い仲間だ。昔のミーティングみたいに、もっと気軽に遊べる中学生の時のような仲間が増えていくと面白い。近隣の仲間とチョイペなんてのが手軽で良い。ノリが良くてクレージーな地元の方、是非名乗り出てお仲間に加わって頂けないだろうか。私は数少ない仲間の出現を、心待ちにしている。

そんな訳で沢山そうした機会を持ちたいと思っているし、地方に行く用事があれば図々しく押しかけたいし、逆も大歓迎だ。大いにやりましょう、2007 のオフ会。



WakiOM 歓迎品川オフ



### 【終わりに】

今年も最後まで駄文にお付き合い下さって有難うございました。どうにも筆が進まずに停滞していたのだが、書き始めると実はどんどん書けたりなんかして、何だもっと早く始めれば良かったと後悔したりした。実は潜在的に書きたいと思っていたことは沢山あったようだった。冒頭でも少し触れたが、自分はこのエッセイを本当に書きたくて書いているのか、それとも義務的に書こうとしているのかが、少しずつ分からなくなり始めていた。そんな訳で書くことを逡巡してしまっていたのも事実だった。しかし上述の通り、書き始めたら次々書きたいことが湧いてきた。

そんな経験を通して感じるのは、とにかくまずキーボードに向かって叩き始めること、それから自分の言葉で改めて書いてみるのかなあということである。過去のこのエッセイで、手を抜くあまり HP の素材をそのまま引用して来たことがあった。そしてそれは自分の新鮮な気持ちではないので、面白くないなあと思うことが自分自身であった。今年度版もハワイの項は随想からの転載であったが、その他の部分は自分の言葉で生の気持ちを書いてみた。そしてそれが正解だと、改めて思い直した次第である。そう言えば「MY BCL LIFE」初版も、殆どは新規に書いたものであった。時間が掛かってもしその方が自分としては納得行くものが書けそうである。

新規に書くことが面倒で仕方なくなったりするとき…そのときこそ本当に義務で書いているのだから、きっともう終わるときなのだろう。幸いにも今年はまだその年ではないようだった。まだまだ掘ってみたい

課題が残されているし、当面それを追求する楽しみを与えてくれそうな気がしている。

最後に 2006 年も親しくお付き合い下さった諸先輩、お仲間の皆様に厚くお礼申し上げますと共に、2007 年も引き続き仲良く遊んで頂けることをお願いしてペンを置く。

**MY BCL LIFE 2006**

2007年1月1日発行

著者：Naka

1964年神奈川県生まれ。現在も在住。1975～80年にBCLに熱中するも、高校進学とともにリタイア。20年のブランクを経て2000年復活。2004年1月にバーチャル書籍「MY BCL LIFE」を発表。以降04年、05年、そして今年と3年連続でアニュアルバージョンを執筆。BCL以外ではエアロビクス、ツーリング（今夏激安中古400CCバイクを購入）、カラオケ（上手いかどうかは別として歌うのは好きだ）、読書（年後半は片道1時間強の通勤時間の大半をこれに充てた。特に恋愛小説に凝った（笑））など趣味多数。わたせせいぞうワールドをこよなく愛する。妻1人と2女あり。



